

養殖魚展覧会と花蓮大地震

皆川 榮治

統計が少し古いですが、2016年の養殖魚の販売量が、2015年に比べ20.36%も減少しました。その要因は温暖化と台風や豪雨、及び冬季の寒波による低温の影響です。台湾で獲れる石斑(ウグイ)虱目魚(サバヒー)蛤(ハマグリ)などの養殖魚が被害を受けました。

これを受け2018年の台湾養殖魚業界では産官学の協力を結集して技術革新、環境改善、持続発展(台湾特有の表現)を目指して新種養殖魚の開発、水質改善、飼料改善、疫病監視機材の開発、気候環境観測技術の向上、自動養殖設備、インテリジェント養殖サービスなどの分野で、養殖業者及び飼料業者が魚種間の境を越えて相互協力しあい研鑽を重ねてきた成果を、2018年の展覧会で発揮しようと企画しています。それが専門研究会及び業者間交流会、ビジネス融合により、業界の交流発展を目指そうとする2018年養殖魚展覧会です。会期は2018年7月26日から28日の3日間で、場所は台北貿易センター1号館です。昨年は農業畜産、漁業の3団体が協力し、展覧会を開催し、36カ国12,089名の参加者を得ることができました。

本年は25か国、300社から世界の最新技術を持ち寄り、養殖魚展覧会を開催しますが、これには東南アジア、中国、インド、中東などから昨年を上回る40か国、20,000名の参観者が来場の予定です。日本からの参観も歓迎しています。今回は日本からの出展はありませんが、主催者に聞いて見ますと、来年は日本からの出展も期待できそうです。

〈花蓮での大地震〉

さて続いて先日の花蓮での大地震ですが、2月6日午後11時50分に発生。マグニチュード6.4の大地震でした。私も眠り際の12時前でしたが、目覚めて揺れに気づきました。17人死亡、7階建てホテル及び12階建てホテルのほか、民家41棟も倒壊する大きな災害になりました。安倍総理は直ちに手書きのメッセージを送り、翌日には国際緊急援助隊専門家チームを派遣しました。

2月12日の台湾での世論調査では、台湾に最も思いを寄せた国は日本が1位で、75.8%、2位が中国で1.8%であったと報道しています。また中国は救援の申し出を行いましたが、高度な機材がある日本以外は受け入れない、との姿勢で台湾政府は一貫しました。

今回の事例を通して日台の絆の深さが刻まれた地震であったと言えそうです。